

2019年7月26日

2019年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原テクノデザインアート専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原テクノデザインアート専門学校 学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

2019年7月26日

2. 学校関係者評価委員

三田村 崇之 氏 (株式会社 ビジュアルソフト)
竹島 隆之助 氏 (株式会社 アートテクノロジー)
安野 健一郎 氏 (KosMos)

(事務局)

赤星 哲志 (大原学園福井校 校長)
小倉 豪円 (大原学園福井校 副校長)
川上 浩司 (大原学園福井校 副校長 兼 教務部長)
山内 博樹 (大原学園福井校教務部 課長)
成田 裕行 (大原学園福井校教務部 課長)
齋藤 大 (大原学園福井校教務部 課長補佐)
玉木 千春 (大原学園福井校教務部 課長補佐)
中野 成一 (大原学園福井校教務部 課長補佐)

3. 平成30年度 自己点検・評価の概要

大原テクノデザインアート専門学校の平成30年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営に関しては意思決定システムが確立されており、円滑な学校運営が行なわれているため、教育理念に基づいて有為な人材育成が行なえているといえる。

昨年度は重点課題を「幸せな就職と実社会での即戦力となる人材育成教育をテーマとした就職教育の一層の充実」「教員の専門性の向上」「リカレント教育に向けたプログラムの開発」「保護者との連携強化」の4点とし、改善に取り組んだ。

まず、30年度も継続して高い内定率（民間企業100%）を達成することが出来ている。教育課程編成委員からの提言により、即戦力を身に付けるPCP（プレキャリアプログラム）教育のブラッシュアップにより多くの学生が特性に合った進路に進んでいる。資格取得においても情報処理技術者試験などの資格試験において高い合格率を維持している。教育イベントにおけるフレッシュマン研修やスポーツフェスティバル等の学校行事を通じて、学生の主体性や対人対応力が発揮され、学生の人格育成を図ることができている。

今後も継続して、幅広い年齢層に対する教育サービスの附帯教育授業を通じ、生涯学習を視野にしたリカレント教育の場として行きたい。これらを通じ社会貢献を果たし、これらの実績に信頼を寄せて頂だける教育を提供したいと考えている。これらの実績に信頼を寄せて頂いていることにより学生募集活動も順調に推移しており、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれているため、財務状況も安定している。

4. 2019年度 重点目標1

「幸せな就職と実社会での即戦力となる人材育成教育」をテーマとした就職教育の一層の充実

<現状・達成指標>

30年度も継続して内定率は十分な成果を上げることが出来ている。今後も本人の特性を把握し、適切な進路指導を実施することで、内定後調査の満足度を高めていく。

<具体的方策>

入学直後から就職関係教育を実施し、年々低下している学生の社会常識等を身に付けさせることで高い内定率を維持している。

昨今の就職協定の変更に伴い採用時期等、企業により対応が異なるが、随時、情報収集と適格な対応により「幸せな就職と実社会での即戦力となる人材育成教育」の実現に取り組む。

<学校関係者評価委員からの提言>

① 同校の学習分野に関連する企業で多くの大原卒業生が活躍しているので、後輩にも期待している。

- ② 学校生活を通じて自分の長所を理解し、仕事に活かして欲しい。
- ③ 本人の特性を生かせる教育、資格取得を選択させることで、即戦力として活躍できる人材を輩出して欲しい。
- ④ 学生の社会常識力の低下について、対応した教育内容を確立し社会貢献を果たしてほしい。

4. 2019年度 重点目標 2

教員の専門性の向上

<現状・達成指標>

資格取得実績は安定的に維持出来ている。年々変化する試験体制に対応し、資格合格者を多く輩出するため教員が常に最新の知識と高い指導力を維持が必要である。そのため組織的な教育研修の環境整備を行なう。

<具体的方策>

企業等と連携し組織的に下記の教員研修を実施継続する。

- ・専門知識、技術に関わる研修
- ・教授法等指導力に関わる研修

また、実践的技術を身に付けさせる教育のために、企業との共同でその企業の商品やパンフ、HP等のデザインを提案および作成を行う等の実践的な実習を継続的に取り組んでいる。

<学校関係者評価委員からの提言>

- ① 単なる資格取得の目的でなく、社会で即戦力となる資格を厳選し、取得させることで多くの卒業生が社会で活躍しており、今後も継続して欲しい。
- ② 資格取得にのみ傾倒した資格取得教育ではなく、実務活用できる知識を前提とした教育を実施して欲しい。
- ③ 資格などの知識のみでなく、実践的な技能を身に付けさせる教育の導入を更に押し進めてほしい。

5. 2019年度 重点目標 3

リカレント教育に向けたプログラムの開発

<現状・達成指標>

卒業後において、より高度な専門知識や技術の習得および他分野知識の学び直し等のニーズに対応するため、付帯教育を提供し支援を行っている。

<具体的方策>

教育訓練給付金制度の認可を受け希望者が学習しやすい、環境を提供している。

マンガ系学科においては、専門課程卒業後も作品の添削指導やマンガ編集部の講評会への参加機会を作っており、デビューへの足掛かりを継続的に提供している。

<学校関係者評価委員からの提言>

- ① 複数の専門知識習得を要求される環境が増加しており、継続して社会ニーズの高い付帯教育を提供して欲しい。
- ② 毎年多数の卒業生を輩出している学校として、卒業生支援の充実は不可欠。
- ③ 年々学び直しのニーズが高まっており、若者のみならず年配者にも学習しやすい環境などを、是非、検討してほしい。

6. 2019年度 重点目標4

保護者との連携強化

<現状・達成指標>

欠席超過、就職支援等、問題を抱えている学生について、保護者に連絡を行い、連携して対処している。校内行事等にも参加頂き、安心と信頼の構築を図りたい。

更に退学の防止にもつなげたい。<具体的方策>保護者に対して、成績・出席状況など月次報告の発送、行事案内等を定期的にメール配信するなど、教育に対する更なる理解浸透を図る。

出席状況が悪化している学生に対して担任面談や管理者面談を実施し学生フォローを行う。状況に応じ保護者との面談も実施している

<学校関係者評価委員からの提言>

保護者を巻き込んだ教育は、学生の成長を促すのに役立つと思うので、今後とも関係各所と連携しながら、学生を成長させて頂きたい。

7. 学校評価全体に対する評価

自己評価結果については、適正であると評価できる。

大原テクノデザインアート専門学校の教育成果や学生指導、学校運営への取組みについて、企業、卒業生の視点から検証を行ったが、自己評価結果は妥当であると評価できる。現状として、学生や保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業でも大原テクノデザインアート専門学校では、良い教育を提供できていると思われる。

今後も、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、社会から専門学校に求める知識・技能教育の内容には変化があるため、現在の状況に満足せず、常によい教育が提供できるよう技術や能力にさらに磨きをかけ、一段とすぐれたものになるよう努力してほしい。

今年度も継続して、重点課題を4点に絞り込んで改善に取り組んでいることに関しても良いと思うが、学校運営の事情から現時点で取組みが行なわれていない項目もあり、これらについては将来的に取り組むを検討して欲しい。

8. 学校関係者委員会総括

学生の「幸せな就職と実社会で即戦力となる人材育成教育」を教育テーマに掲げて、教職

員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。修業年限の中で、社会で即戦力となる知識技能や社会性を向上させる教育が提供されていると思う。また、学校生活においては教員と学生の距離が非常に近い学校であることが大原テクノデザインアート専門学校の特徴であり、学生個人の特性に配慮した指導が、素晴らしい教育成果を挙げている原点であろうと推察される。多くの学校行事を通じたコミュニケーションを始め、学習相談は勿論のこと日々の生活における悩みなども教員と共有解決しながら、学生が成長していく姿が想像できる。

大原テクノデザインアート専門学校では、現在の教育内容にも学生の社会性向上に向けた教育が含まれているが、今後も更なる社会性の低下が予想され問題となっている。「幸せな就職」を継続的に実現するには、同能力の向上させる教育プログラムを適宜、改訂することが重要と思われるので、重点課題の改善に向けた取組みの中で反映させて欲しい。

今後も学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、大原テクノデザインアート専門学校が益々社会の信頼を得られるようにサポートして行きたいと思う。